

刊行の辞

理事長 山崎 吉朗

外国語教育の歴史の中で、2019 年は記録に残る年となるでしょう。言うまでもなく、大学入学共通テストを巡る動きです。英語の民間試験導入が 11 月 17 日に延期となり、12 月 17 日には国語、数学の記述試験の白紙見直しが発表されました。英語の場合、大学入試センターが処理する共通 ID の登録が始まる当日の発表で、急遽、共通 ID の受付は中止されました。教員、生徒、どれだけの準備や勉強をして来たのでしょうか？ 2021 年 1 月の試験まで間もなく 1 年となる時期でした。かつて、大学入試センター試験の前身となる共通一次試験の実施が一年延期されたことがありましたが、今回の延期、中止の混乱はそれどころのドタバタではないでしょう。スラップスティック映画です。

今回感じた一番大きなことは政治力の巨大さです。果たして、「身の丈」発言が引き金となって、積み上げてきた改革が一挙に瓦解したのか、読売新聞 12 月 30 日の記事「民間試験延期「任せるよ」」にあるように、発言とは関係なく、そもそも文科大臣は延期や白紙の道を探っていたのかは定かではありませんし、ここで論ずる紙幅もありません。しかし、少なくとも、あれだけ様々な研究者や教育関係者が反対し、9 月には全国高等学校校長会が「英語 4 技能検定の延期及び制度の見直しを求める要望書」を出し、当事者である高校生までもが反対の表明をしても、文科大臣の発言は全く変化なく、あくまで実施の方向を崩さなかったのが、10 月 24 日の「身の丈」発言から僅か一週間で延期表明となったというのは事実です。政治が動き、文科大臣が決断すれば、このような大きな政策が一挙に変わるのを目の当たりにしたというのが今回の感想です。

政治的な動きがあり、文科大臣が決断すれば、JACTFL が進めている「多様な外国語教育の推進」も、一挙に進むこともあるのでしょうか？ 2019 年 7 月から 8 月まで 5 回に亘って掲載された読売新聞「教育ルネッサンス 多言語教育」最終回のタイトルは、筆者と奈良教育大学吉村雅仁先生の「高校は 2 言語を必修に」でした。これも、政治が動けばあつという間に実現するのでしょうか？

もちろん、偶然に任せた空想や夢物語として考えているのではなく、一步一步進んでいくのが JACTFL で、文科省などへの働きかけは大きな使命です。本研究会誌の第 3 号から 5 号まで、「声をあげる」、「変革の兆し」、「政策を動かす」と、文科省や東京都に対する提言や要望を報告してきました。一団体の提言や要望が直接国の政策を動かしていると言うのは大言壮語かと思いますが、何らかの影響を与えたと言えると思

ています。声を届ければ政策も変わると確信しています。今回も、「声をとどける ― 東京都への要望―」で報告しているように、オリンピック後の英語以外の外国語教育政策について要望しました。詳細は報告を御覧ください。

本号は、特別インタビュー1本、特別寄稿1本、受賞作品掲載1本、論考5本、報告6本、昨年度のシンポジウム報告で構成され、充実した内容になっています。すべての寄稿者に感謝致します。11月の講演会で講演をお願いしたトニー・ラズロ氏にも特別寄稿をいただきました。ポリグロットの貴重な寄稿です。また、理事茂木氏の読売教育賞(外国語・異文化理解部門)受賞を祝して転載します。身内から受賞が出るというのは嬉しい限りです。また、手前味噌ですが、筆者のインタビュー記事「僕の生活はフランスから一歩も離れなかった―101歳の山崎剛太郎氏インタビュー―」は、ほとんど歴史的な証言となる話の数々です。インタビューをした時の年齢をタイトルにしています。今は102歳で、目や耳には衰えがあるものの、杖もつかずお元気です。当たり前のように西条八十や加藤周一、ジュラル・フィリップという名前が出て来るインタビューを是非御覧ください。文中にも書いているように、お嬢さんの比彩乃さんには何度も事実確認をして頂き、最終原稿はすべて読み上げて頂き、剛太郎先生と奥様の二人に確認して頂きました。改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

改めて記しておきます。JACTFLの定款第3条の目的(抜粋)です。

「多言語多文化が共生するグローバル社会に対応する多様な外国語教育を推進することを通じて、我が国における外国語教育及び外国語学習の質的向上と普及を図るとともに、21世紀を生き抜く若い世代の育成と我が国の学術振興及び諸外国との相互理解に寄与することを目的とする。」

創刊号で、「ともかく一歩一歩進む。この会誌第1号もその一歩だと信じている。」と書きました。設立当初から、多くの研究者や現場の教員の発信の場を提供することが重要だと考え、ISSNを取得した159ページの立派な冊子でスタートした研究会誌も第7号となりました。設立の目的達成のために、一歩一歩進んで行きたいと考えています。今回、その一歩を大きくする為に、日本学術会議の協力学術研究団体の申請を行いました。現在、結果を待っているところです。必要要件は満たしていますので認可されると信じています。そうなればさらに大きく一歩進めます。

最後になりますが、広告が掲載されて6年目になります。広告掲載各社及び賛助会員の皆様には、JACTFLを大きく支えて頂いています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

げます。本当にありがとうございます。

(一般財団法人日本私学教育研究所)